

「Qの会」第32回

研修会・総会開催

6月26日にWEBでの「Qの会」第32回研修会が「高齢糖尿病患者の看護」というテーマで開催されました。今回は香川大学医学部附属病院リハビリテーション部眞鍋朋善先生に「高齢者糖尿病患者のフレイル対策と身体活動指導」の講演をいただきました。続いて「高齢者糖尿病ケア」として、とみおか内科クリニックの是本奈津子先生・回生病院の國村昭子先生・済生会松山病院の二宮里佳先生をシンポジストにお迎えし、それぞれの立場から日頃の指導の工夫や実践の成果等についてご紹介いただきました。大変興味深い内容で実践に多くのヒントをいただきました。

コロナ禍での初めてのWEBでの研修会で、音声が聞き取りにくい、画像が揺れるなどのトラブルはありましたが、大過なくWEB研修会を終えることができました。
研修会アンケート結果
第32回研修会参加者44名より回答頂きました。内容について「現場へ活かすことができそう」という意見が90%以上ありました。



今後の研修会のテーマについて「患者教育」「ホップ療法」「心理」「災害」「医療安全」という意見がありました。今回の研修会開催についても「WEB開催がとてよかったです」という意見がある一方で、「WEB開催も悪くはないが、聞き取りにくいところがあったので、よほどの感染症の流行でなければ、会場開催がやはり良いと思います」という意見もありました。これらのご意見を参考にしながら、今後の研修会は感染対策を行い、より良い研修会にしていきたいと思っております。

香川県糖尿病療養指導士看護ネットワーク「Qの会」

第33回研修会のご案内

日時：2022年11月20日(日) 13時から
場所：香川大学看護学科
メインテーマ：地域でつながる糖尿病看護
★「Qの会」ホームページ研修申し込みより参加申し込みをお願いします。

学会・研修会のご案内

認定更新のための研修単位が取得できる予定の研修会をお知らせします。

★第27回日本糖尿病教育・看護学術集会・・・第1群または第2群 4単位
日時：2022年9月17日(土)～18日(日)
場所：大阪国際会議場ハイブリッド開催予定

★日本糖尿病学会中国四国地方会第60回総会・・・第2群4単位
日時：2022年11月11日(金)～12日(土)
場所：広島国際会議場

★第57回糖尿病学の進歩・・・第2群4単位
日時：2023年2月17日(金)～18日(土)
場所：東京

◆編集後記 新型コロナウイルス感染症が再拡大しています。引き続き、「コロナに負けないように頑張ってくださいませよう。小松原たか子・串田久美

コロナ禍における在宅療養支援

セントケア四国(株) 香川事業部 「Qの会」会長 藤本さとし
2022年4月から訪問看護事業を展開するセントケア四国(株)で、ナースアドバイザーとして勤務しています。香川大学病院地域連携勤務時代から訪問看護師の方たちとは患者さんの在宅療養のために連携をさせていただいていました。今回コロナ禍での訪問看護の変化を通して糖尿病患者さんの在宅療養生活にどのような変化が起きているのかを訪問看護ステーションの所長へのインタビューを通してまとめてみました。また、普段糖尿病患者の在宅療養で感じていることも併せてお聞きしてみました。

- 1. 急に退院が決まり退院前カンファレンスをせず、退院するケースが増えた。
- 2. 家族が面会できないため、退院支援が中途半端であったり、十分なまま退院してくるケースが多い。
- 3. 入院中、家族と面会できなかったことで不安を抱えて入院生活を送り、退院してくるケースもある。

- △ 訪問時の変化
 - 1. 利用者への体調変化への細やかな注意が必要になった。
 - 2. 発熱時に往診医やかかりつけ医との連携やスタンダードプリコーションの実施等以前と比較し手間がかかっている。
 - △ 糖尿病患者の訪問看護で感じていること
 - 1. 脳梗塞、心筋梗塞、血液透析等の利用者は多く、基礎疾患として糖尿病に罹患している人が多い。
 - 2. 介護度が低く頻回の訪問を必要とする方(独居の方)への対応に苦慮する。
 - 3. 高齢患者や高齢認知症患者に強化療法を強い医師指示に困る。
 - 4. 糖尿病がベースにあり、合併症を含め症状が悪化していく人への対応に苦慮する。
 - 5. 一人暮らしや高齢夫婦の方の施設等へ移行時期の見極めが難しい

△ 糖尿病看護の専門職へのコンサルテーション
1. WOC看護師やがんに関連する認定看護師のように同行できる制度があれば利用したい。
以上のことから、基礎疾患として糖尿病に罹患している糖尿病患者は訪問看護を利用している人が多くなってきました。また、高齢糖尿病患者にインスリンを導入するケースが増えています。また、認知症の高齢患者が増えており、独居の利用者へのケアに苦慮するケースがあることもわかりました。将来的には専門スキルを持った看護師が訪問看護師と同行訪問ができるようになればよいと考えます。